

山車展示が復活しました！



本年の七夕では、東日本大震災前にタピック45(旧道の駅高田松原で行われていた山車の特別展示とお囃子の披露が復活しました。

会場となったアバッセたかた前の駐車場には、8月7日(木)のうごく七夕まつりに参加した祭組のうち、鳴石、大町、川原の山車を展示。8日(金)から15日(金)までの期間で展示され、七夕まつり当日に参加できなかった地域住民らが、まつりの魅力や雰囲気を感じようと駆け付け、連日にぎわいを見せました。

展示期間中には、各祭組が1日2、3組集まり、お囃子を披露。競い合うような太鼓と笛の音色で会場は盛り上がり、活気があふれました。11日月・祝には、気仙町けんか七夕祭り保存連合会のメンバーが山車の前に太鼓を並べ、力強いお囃子で見物客を魅了しました。

震災による休止を経て、15年ぶりに復活した山車の特別展示。地域住民はもちろん、お盆期間中の帰省者や観光客など、多くの人が七夕の余韻に浸った8日間となりました。

次世代の担い手に聞く

受け継がれる七夕への想い

高田町うごく七夕 駅前祭組
さかきばらすばる
榎原昂さん

まずは自分たちが楽しんで熱を伝えたい

高校卒業後は東京にいましたが、今年の2月に結婚し地元に戻ってきました。これまでも七夕には毎年参加していましたが、久しぶりに準備から携わりました。

やはり七夕は最高です。担い手が減ってきたと言われていますが、参加する若手や子どもたちはむしろ増えているのではないかなと思うほど、活気づいている印象があります。まだ先輩方から教わることも多いですが、ここ数年は自分たちの世代がしっかり受け継いでいくという自覚を持つようになり、次を担う子どもたちにもその想いを残していけるよう頑張っています。

そのためには、まず自分たちが楽しむことが一番大切です。みんなで一緒に楽しみながら、この熱い思いを伝え続けていけたらと思っています。

榎原昂さん(左)と妻・リカさん



気仙町けんか七夕
ちばだいき
千葉大輝さん

気仙町の伝統を絶やさないようにしたい

幼い頃から七夕には参加していますが、2年ほど前から準備も含め深く関わるようになりました。6月上旬頃から始動し、フジのつるを巻く作業などに悪戦苦闘しながら、夜遅くまでかけて準備を進めてきました。

七夕当日を迎えると「夏が来たな」と実感します。伝統の「けんか」を披露する際には、カメラやスマートフォンを持って写真を撮ってくれる方や、「すごい」と感想を言ってくれる方も多く、そうした様子を見ると準備から頑張ってきた本当に良かったと思います。

これまで頑張ってきた先輩方の思いを受け継ぎ、みんなで力を合わせながら、自分たちの誇りである気仙町のこの伝統を絶やさないようにしていきたいです。

千葉大輝さん



矢作町下矢作灯籠七夕

栗村咲良さん(高田高校3年)・佐藤星恋さん(高田第一中2年)

地域が団結できるこの行事をつないでいきたい

お囃子の笛を担当し、地域の皆さんに教わりながら当日に向けて練習してきました。下矢作灯籠七夕の魅力である山車の迫力はもちろんですが、私たちも上達した笛の演奏を響かせることができていると思います。

普段、子どもから大人までが一堂に会する場を持つことが難しい中で、こうした行事は地域のみんが交流し、ひとつになって団結できる貴重な機会です。沿道の皆さんも一緒に声掛けをしてくれるなど、地域が一体となって盛り上がってくれるのがとてもうれしいです。

来年以降も、例えば学校で宣伝して友人たちを呼んだりするなどして、自分たちの世代がこの伝統をつなげていけるよう頑張っていきたいです。

栗村咲良さん(左)と佐藤星恋さん

